

地域気象情報プロジェクト【三重県伊勢市中島学区】

地域の誰もが知る場所(例:街のスーパー)、地域で実際に起きた災害の名前(例:〇〇台風)、直感的に災害のイメージがわく表現(例:〇〇川が後1mで氾濫しそう)などを利用し、地域にとって重要な気象情報や河川情報を、自分たち自身にとって身近な情報として置き換え利用することで、情報を我が事として捉え、いざ災害が差し迫った際に、災害に対する危機感を円滑に共有する取り組みを実施。

住民自らが表現内容を考え、自分たちにとって重要な気象情報を確かめることを通して、気象情報の主体的な利活用を図っている。また学校やスーパーマーケットなどに地域に関係する気象情報を表示するモニターを設け、生徒・教員、住民が日常生活の中で、気象情報や河川情報に触れる機会を設けている。



度会橋むらさき水位超える情報

度会橋の水位が、むらさきの線(避難判断水位)を超えました。宮川沿いではガマの発生が危惧されます。避難が必要な皆さんは、避難の心積もりしてください。

▼伊勢宮川中学校に設置された地域気象情報モニター



▼地域のスーパーマーケットに設置された地域気象情報モニター

地域気象情報

河川事務所

都道府県

気象台

研究機関

リスクコミュニケーションを通じた知識の融合
災害リスクの意識の共有

地域住民

市町村

地域情報

地域主体

地域共有

①地域の身近な言葉でわかりやすく

②自分たちの情報として、考え利用する機会を持つ

③地域で共有し、事前に危険意識を醸成する

防災スイッチプロジェクト【兵庫県宝塚市川面地区】

避難情報だけでなく、災害につながる地域の前兆現象(例:まずはこの水路から溢れてくる)、そしてそのような危険に前もって気づくための気象情報の双方を活用し、地域住民自らが日常モードから災害モードに切り替えるタイミング(防災スイッチ)と行動を明確にすることで、危険になる前に災害対応に結びつける取り組みを実施。

「いつ」という行動タイミングを地域で前もって明確にし、「何を」するか決めておくことにより、判断の遅れや迷いの防止の効果が期待される。また地域住民が普段利用する情報(例:交通情報や買い物情報)に、地域に関する気象情報を加えたポータルサイトを設け、日常的に防災スイッチに関する気象情報に触れる機会を設けている。



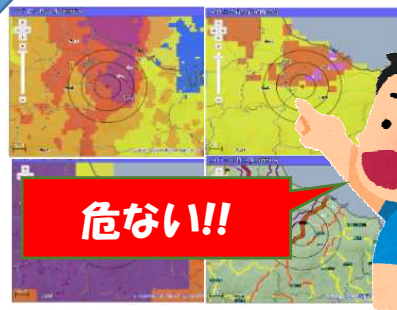
日常モード



災害モード



午後は晴れ

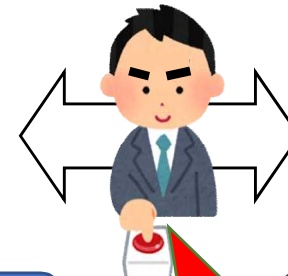


危ない!!



①地域の危険箇所
や前兆現象

実際に見ることのできる周
囲の様子



防災
スイッチ



②地域気象情報
ポータルサイト

テレビ、スマホ等から手に入
れることのできる情報

自分たちの身を自分たちで守るために
前もってみんなで決めた防災スイッチで
行動に移します!!

防災スイッチで、いつ・何をするかを明確化!!